

2024 年度 第 3 回 10 月九大本番レベル模試 地理総合・地理探究 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

[1]

問1 30 点

アジアの乾燥地域では、草と水を求めて家畜と移動する遊牧が行われる。羊、やぎ、らくだ、馬などを飼育して、荷役に用い、乳、肉、毛皮などを生産する自給的性格の強い伝統的農業である。商業的農業が展開される西ヨーロッパ中部では穀物と飼料作物の輪作と、肉牛や豚・鶏などの舎飼いを組み合わせた混合農業がみられ、特に豚肉の生産が盛んである。北部や山岳部では牧草や飼料作物を栽培して乳牛を飼育し、生乳やバターなどを生産する酪農が行われる。新大陸では、広大な牧場で肉牛を大規模に放牧する企業的牧畜が行われる。アメリカ合衆国ではフィードロットで濃厚飼料による効率的な肉牛の肥育、オーストラリアでは毛用羊の飼育が盛んである。

【加点ポイント】

i) アジアの乾燥地域について (10 点)

①<2 点> 【畜産業の形態】

- 遊牧 →2 点
- ×放牧／飼育

②<2 点> 【①の主な家畜】

- 羊／やぎ／らくだ／馬 →いずれかで○2 点

③<6 点> 【①の特徴】

- 草を求めて移動する
- (家畜を) 荷役に用いる
- (家畜の) 乳／肉／毛皮 を用いる
- 自給的／伝統的／粗放的

○1 つ 2 点
6 点まで

ii) 西ヨーロッパについて (12 点)

④<2 点> 【主な畜産業の形態】

- 混合農業

⑤<2 点> 【④の主な家畜】

- 豚 →2 点
- △「肉牛／鶏」のみ →1 点

(次ページに続く)

⑥<4 点 (2 点×2)> 【④の特徴】

- (家畜飼育とともに) 穀物と飼料作物を栽培する →2 点
(※ △「穀物」「飼料作物」いずれかとともに家畜を飼育 →△1 点)
- 商業的 →2 点

⑦<2 点> 【その他の畜産業】

- 酪農/乳牛を飼育 →2 点

⑧<2 点> 【⑦の特徴】

- 北部/山岳部/寒冷地 で行われる
- 生乳/バター/チーズ/乳製品 を生産する } ○いずれかで 2 点

iii) 新大陸について (8 点)

⑨<2 点> 【畜産業の形態】

- 放牧/牧畜 →2 点

⑩<2 点> 【⑨の主な家畜】

- 肉牛 →2 点

⑪<2 点> 【⑨の特徴】

- 広大な牧場/大規模/企業的/商業的/輸出目的で飼育 →2 点

⑫<2 点> 【その他】

- アメリカ合衆国ではフィードロットで肥育される
- アメリカ合衆国では濃厚飼料により短期間で肥育される } ○いずれかで 2 点
- オーストラリアでは羊の放牧 (飼育) も盛ん

問 2 14 点

※ 【指定語句】 健康志向 人口 宗教 3 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

人口の多いアジアの新興国で経済成長が進み、食生活が高カロリー型に変化し、肉類の需要と生産が増加した。低脂肪の鶏肉は、健康志向が高い先進国での需要が増加している上、他の畜肉に宗教的禁忌を持つムスリムやヒンドゥー教徒にも消費され、その経済成長による需要増加から、生産量が急増している。

【加点ポイント】

①<8 点 (2 点+3 点+3 点)> 【肉類生産量増加の理由】

- 人口増加/アジアの新興国は人口が多い →2 点
- 経済成長/国民所得の向上/生活レベルの向上 →3 点
- 食生活の高カロリー化/食生活の西洋化/肉食の増加/肉類の需要増加 →3 点

②<6 点 (3 点×2)> 【鶏肉生産量の増加の理由】

- 健康志向が高い人々の鶏肉需要が増加/鶏肉は低脂肪 (カロリーが低い) →3 点
- 鶏肉は宗教的禁忌が少ない/ムスリムやヒンドゥー教徒でも鶏肉は食べられる →3 点

問 3 6 点

飼料需要の増大による穀物価格の上昇、家畜飼料に必要な水資源の消費増大、牧草地の拡大による森林破壊の進行の課題が生じる。

【加点ポイント】

①<2 点 (1 点×2)> 【穀物への影響とその理由】

- 穀物価格の上昇／穀物の供給不足／栄養不足人口の増加 →1 点
- (理由として) 穀物の飼料需要の増大／飼料になる穀物の増加 →1 点

②<2 点> 【水資源への影響】

- 家畜飼料(の生産)に必要な水資源の消費増大 →2 点

③<2 点 (1 点×2)> 【森林への影響とその理由】

- 森林破壊(伐採)／森林の減少／熱帯林の破壊(伐採) →1 点
- (理由として) 牧草地の拡大／牧場の開発(造成) →1 点

[2]

問1 △「都」「府」「県」の欠落 →△1 点

問 2 10 点

琵琶湖があるため、総面積に占める可住地面積の割合が比較的小さい。また、京都や大阪へ通勤する人々が多く暮らすベッドタウンを持つため、昼夜間人口比率が低くなる。ベッドタウンには子育て世帯が多く、それを反映して1世帯当たり人員、および有業者全体に占める教育・学習支援業の割合は高くなる。

【加点ポイント】

★問1「D:滋賀県」の正解(○/△)を加点の前提とする。

①<3 点 (1 点+2 点)> 【可住地面積の割合について】

- 可住地面積の割合が小さい(低い) →1 点
- (理由) 琵琶湖がある →2 点

②<3 点 (1 点+2 点)> 【昼夜間人口比率について】

- 昼夜間人口比率が低い／昼夜間人口比率が100を下回る →1 点
- (理由) 京都や大阪へ通勤(通学)する人々が多い／京都(大阪)のベッドタウンである →2 点

③<4 点 (1 点+1 点+2 点)> 【1世帯当たり人員と教育・学習支援業の割合について】

- 1世帯当たり人員が高い／1世帯当たり人員が2を超える →1 点
- 教育・学習支援業の割合が高い →1 点
- (理由) 子育て世帯が多い／子どものいる世帯が多い／年少人口が多い
／学齢期の子どもが多い →2 点

問 3 10 点

※ [指定語句] 海 主要路線 平野 3 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

図 2 の着色部は半島を示している。半島は三方位を海に囲まれ、かつ、多くが高速道路や新幹線等の陸上交通の主要路線から離れているため、他地域との往来に時間がかかる。また、急峻な山地が多く平野が狭い。よって、工業や商業が集積しにくく、就業機会が増えずに過疎化しやすい。

【加点ポイント】

①<2 点> 【着色部の地形の呼称】

○半島 →2 点

※以下の②③は①が不正解でも加点する

②<6 点 (2 点×3)> 【①の影響や特徴】

○交通 (高速道路/新幹線) の主要路線から離れている/主要路線が通っていない →2 点

○三方位を海に囲まれている/海に面しているところが多い →2 点

○平野が狭い/急峻な山地が多い/山地が海岸近くまでせまる →2 点

③<2 点 (1 点×2)> 【②により過疎化する理由】

○他地域との往来に時間がかかる/交通の便が悪い/大都市のベッドタウンになりにくい

／他地域への通勤 (通学) が難しい

→1 点

○工業や商業が集積しにくい/ (第 1 次産業以外の) 産業が発達しにくい

／就業機会 (雇用) が増えにくい (少ない)

→1 点

問 4 18 点

※ [指定語句] 働き盛り世代 坂 階段 孤立 学校 5 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

ニュータウンには働き盛り世代が一斉に入居したが、多くが高齢者となった。丘陵地に作られたニュータウンには坂や階段が多く、古い集合住宅には上下移動の手段が階段のみの建物も多い。そのため、移動が困難になり社会的に孤立する高齢者が増えるおそれがある。また、ニュータウンには働き盛り世代の子どもたちも一斉に入居し、彼らの通う学校が多数建てられたが、彼らが学齢を過ぎてその数が過剰になり、統廃合される学校が増えた。

【加点ポイント】

i) 入居者について (4 点)

①<2 点> 【入居者の特徴】

○ (建設時の) 働き盛り世代が一斉に入居した/入居者は働き盛り世代に偏っていた →2 点

②<2 点> 【①の現在の状況】

○ (現在は) 高齢者が多い/老年人口の割合が高い →2 点

(次ページへ続く)

ii) 住環境について (8点)

③<4点(2点×2)> 【住環境の特徴】

○坂や階段が多い／丘陵地に作られている →2点

○階段のみの建物が多し／建物のバリアフリー化が遅れている →2点

④<4点(2点×2)> 【③の影響や問題点】

○孤立する高齢者が増える／独居の老人が孤立している →2点

○移動が困難である／車を持たない人が不自由になる／買い物難民が増える →2点

iii) 学校について (6点)

⑤<2点> 【現在の状況】

○統廃合される学校が増えた →2点 (※近年、学校数が減少していることが分かれば可)

⑥<4点(2点×2)> 【⑤の理由】

○(ニュータウン建設時に) 子どもたちが一斉に入居し学校が増やされた

／子どもの数が急増し学校数が増えた →2点

○(現在は) 子どもたちが学齢を過ぎて学校の数が過剰になった

／学齢期の子どもたちが少なくなった

／新しい入居者が少なく子どもが増えない →2点